

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：24302

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18364

研究課題名（和文）異種古辞書間におけるデータ連携モデルの構築

研究課題名（英文）Building a data linkage model that connects multiple ancient dictionaries

研究代表者

藤本 灯（FUJIMOTO, AKARI）

京都府立大学・文学部・特任准教授

研究者番号：20733017

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：構造の異なる辞書同士を結び付ける方法として、『日本国語大辞典』のURLを利用する方法の在り方を模索し、プロジェクトで作成した『落葉集本篇』を利用して、紐づけの試みを行い、有益な点と問題点の洗い出しを行うに至った。実質的な成果として、『辞書語彙データベース』（<https://jisho-goj.kojisho.com/>）上で、『本草和名』『古活字版和名類聚抄』『落葉集本篇』の全体を検索システム上で公開した。また毎年度末に、他の科研費プロジェクトと協力して、フォーラムないしシンポジウムを共催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、日本語語彙の横断検索のための核となる「辞書」としては、国立国語研究所の構築してきた形態素解析用辞書UniDicの「語彙素」が最も有用であった。しかし、古辞書の語彙は、一般的な日本語の語彙とは異なり、特殊なものが多く、UniDicではカバーしきれない部分が大半であった。本プロジェクトでは、『日本国語大辞典』に収録された古辞書語彙の「ハブ」としての有効性に注目し、実際に古辞書と紐づける試みを行い、問題点と可能性について具体的な指摘を行った。このことは、今後、古辞書を含めた日本語データベースを構築していく上で重要な基礎的研究となった。

研究成果の概要（英文）：We explored the use of URLs from the "Nihon Kokugo Daijiten" as a method to link dictionaries with different structures. Using the "Rakuyo-shu" created in the project, we attempted linkage and identified both benefits and challenges. As a substantial outcome, As a substantial achievement, we publicly released the entire contents of "Honzo Wamyo," "Kokatsuji-ban Wamyo Ruijusho," and "Rakuyo-shu" on the "Jisho Goi Database" (<https://jisho-goj.kojisho.com/>). Additionally, we annually co-hosted forums or symposiums in collaboration with other JSPS projects.

研究分野：日本語学

キーワード：古辞書 色葉字類抄 落葉集 文明本節用集 日本国語大辞典 データベース 辞書語彙データベース 増続大広益会玉篇大全

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本邦では現代に至るまで、多数の辞書(国語辞書、漢和字書、歌語辞書、葉草辞典等)が作成されてきた。古辞書に記載された内容からは、当時の本邦人による言語運用の一端のみならず、文化や社会背景についても多くの情報を知ることができる。従来、たとえば国語辞書と漢和字書とは、専門家には別物として扱われてきたが、一般にはその差異がよく理解されておらず、適切に利用されてこなかった面もあった。本研究は、両者の差を浮き彫りにしたうえで、異種辞書間のデータの融合・連携への道筋をつけることを目標としたものである。具体的には、古辞書に片仮名等で記載された「和訓」「字音」をキーとしてその記述を一括して参照できる理論の確立とシステムの構築を目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多様な目的によって編纂された、内容や性格の異なる「古辞書」(江戸時代以前に日本で作成された、語彙集全般)の記述を横断的に検索できるようにすることである。国語辞書史研究と漢和字書史研究の知見を融合しつつ、国語学・辞書学・人文情報学の観点から、そのシステム構築に最も適した「理論と方法」を考案する。本研究の成果を用いて、古辞書データベース連携検索の利便性を向上させることにより、古代文献・古典作品の用例採集や作品読解に役立つことが見込まれる。

3. 研究の方法

異種辞書間の連携を目指す上では、多くの古辞書の見出しに位置する「漢字」(中国語)を共通キーとするのではなく、振り仮名や本文注記として示された和訓や字音すなわち「語の読み」(日本における意味を表す音節)を用いることが有効である。なお、和訓等には仮名遣いや語形の揺れ(ミツノミス)や、日本語を万葉仮名で示した例が存するため、代表語形を策定すること(キーの正規化)も必須となる。古典語を多く擁する『日本国語大辞典第二版』(小学館)の掲出語形を、辞書間をつなぐハブとして用いることが有効であると考えのもと、本研究では、既存データベース(『辞書語彙データベース』)を用いて「日本語」キーによる連携の試行をおこない、有効性を検証した。



図 日本国語大辞典をハブとした日本語データベースの連携イメージ

4. 研究成果

2021年度は、基礎研究のためのデータベース作成を開始し、年度末には、シンポジウム「古辞書・漢字音研究と人文情報学」を共催した。

2022年度は、データベースの作成を継続するとともに、異なる性格の辞書同士の連携についての検討を進めた。年度末には、web 研究会集「古辞書・漢字音研究とデータベース 2022」を開催した。

2023年度(最終年度)は、『落葉集本篇』と『日本国語大辞典』の URL を紐づける試みを行い、有益な点と問題点の洗い出しを行った。2023年秋の日本語学会での発表「『辞書語彙データベース』の構築と展望 異種古辞書連携のためのキー策定を目指して」は本研究をさらに推進して

いく上で道筋をつけた研究と位置づけられる。具体的には、『落葉集本篇』イ部・口部の466語中62語が『日本国語大辞典』に非掲載であることや、『落葉集』の(時代の)用例を『日本国語大辞典』が漏らしていることなどを指摘した(『日本語学会2023年秋季大会予稿集』pp.139-144)。その他、本研究についての国際発表を行った(“The Linking of Different Types of Dictionaries: through the Construction of Jisho Goi Database”)。年度末には北京・清華大学で、「講習会 日本の文献資料《古辞書・漢字音》を読む」「フォーラム古辞書・漢字音とデータベース2024」を共催した。

3年間の実質的な成果として、『本草和名』『古活字版和名類聚抄』『落葉集本篇』の全体および『文明本節用集』『増続大広益会玉篇大全』の一部を『辞書語彙データベース』(<https://jisho-goi.kojisho.com/>)の検索システム上で公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 藤本灯	4. 巻 42-2
2. 論文標題 色葉字類抄の語彙の性格	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本灯	4. 巻 19-3
2. 論文標題 語彙（史的研究）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本語の研究	6. 最初と最後の頁 206-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤本灯・佐々木委久・久保証子・田中百花・岩崎凜太郎・西垣楓薫	4. 巻 21
2. 論文標題 『鶯塚千代迺初声』三編・四編 翻字と注釈	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 和漢語文研究	6. 最初と最後の頁 206-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野直樹	4. 巻 38
2. 論文標題 〔書評〕李媛著『空海の字書 人文情報学から見た篆隸万象名義』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 常葉国文	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李媛	4. 巻 12
2. 論文標題 關於日本古辭書中據漢文小句所記述的字義注釋：以篆隸萬象名義為例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国言語文化学研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田証壽, 李媛, 劉冠偉, 鄭門鎬	4. 巻 2022
2. 論文標題 GlyphWikiによる観智院本『類聚名義抄』字形の再現とその改善	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 じんもんこん2022論文集	6. 最初と最後の頁 103-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野 直樹	4. 巻 53
2. 論文標題 毛利貞斎著『増続大広益会玉篇大全』研究の現在：データベース化に先立って	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 常葉大学短期大学部紀要 = Bulletin of Tokoha University Junior College	6. 最初と最後の頁 13-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18894/00002391	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本 灯、韓 一、高田 智和	4. 巻 21
2. 論文標題 古辞書の構造化記述の試み：『和名類聚抄』を例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集 = NINJAL Research Papers	6. 最初と最後の頁 85～94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00003438	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 13件）

1. 発表者名 李媛
2. 発表標題 古辞書文字の標準化へ向けて：観智院本類聚名義抄を中心に
3. 学会等名 シンポジウム「古辞書データ共有と拡張」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 池田証壽, 李媛, 劉冠偉, 鄭門鎬
2. 発表標題 GlyphWikiによる観智院本類聚名義抄字形の再現とその再現
3. 学会等名 人文科学とコンピュータシンポジウム2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 辞書語彙データベース構築の見通し
3. 学会等名 研究集会「古辞書・漢字音研究とデータベース2022」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 久保証子
2. 発表標題 『落葉集本編』『和訓栞』本文のデータベース化
3. 学会等名 研究集会「古辞書・漢字音研究とデータベース2022」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大島英之
2. 発表標題 『文明本節用集』データベース化の方法と課題
3. 学会等名 研究集会「古辞書・漢字音研究とデータベース2022」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野直樹, 劉冠偉
2. 発表標題 『増続大広益会玉篇大全』データベース化の試み 巻一の公開にあたって
3. 学会等名 研究集会「古辞書・漢字音研究とデータベース2022」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 劉冠偉
2. 発表標題 辞書語彙データベースの実装についての進捗
3. 学会等名 研究集会「古辞書・漢字音研究とデータベース2022」(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野直樹
2. 発表標題 毛利貞斎著『増続大広益会玉篇大全』研究の現在 データベース化に先立って
3. 学会等名 シンポジウム「古辞書・漢字音研究と人文情報学」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本庄総子
2. 発表標題 疫病の語彙と疫病観
3. 学会等名 シンポジウム「古辞書・漢字音研究と人文情報学」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 李媛、池田証壽
2. 発表標題 字形再現による観智院本類聚名義抄の掲出字についての考察
3. 学会等名 シンポジウム「古辞書・漢字音研究と人文情報学」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林雄一
2. 発表標題 『名語記』の注釈構造 他古辞書との差異
3. 学会等名 シンポジウム「古辞書・漢字音研究と人文情報学」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 李媛、池田証壽
2. 発表標題 篆隸萬象名義中の同音反切重出
3. 学会等名 世界漢字學會第八屆年會（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shoju Ikeda, Yuan Li
2. 発表標題 Revised text and note making of Chinese-Japanese character dictionaries compiled in early Japan: A case of Ruijumyogisho
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies(EAJS2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuan LI, Guanwei LIU, Shoju IKEDA
2. 発表標題 Issues around glyph creation of undefined Chinese characters in Kanchi ' inbon Ruijumyogisho
3. 学会等名 EI ' Manuscript 2020 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本灯、久保柁子、劉冠偉
2. 発表標題 『辞書語彙データベース』の構築と展望 異種古辞書連携のためのキー策定を目指して
3. 学会等名 日本語学会2023年度秋季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 劉冠偉、中野直樹、大島英之、久保柁子、藤本灯
2. 発表標題 異種日本古代辭書綜合資料庫的開發：以《辭書語彙資料庫》的構建為例
3. 学会等名 第十四屆數位典藏與數位人文國際研討會 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本灯、劉冠偉、久保亜子、大島英之
2. 発表標題 古辞書データベースの開発
3. 学会等名 じんもんこん2023 人文科学とコンピュータシンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 漢和字典と国語辞典の交差
3. 学会等名 第8回神戸大学・北京外国語大学国際共同研究拠点シンポジウム「漢字を読む 日本語と中国語」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本灯、劉冠偉、申雄哲、中野直樹、李媛、小林雄一、大島英之、久保亜子
2. 発表標題 The Linking of Different Types of Dictionaries: through the Construction of Jisho Goi Database
3. 学会等名 The 13th International Conference on Han-Character Education and Research (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 日本の文献資料 古辞書 を読む
3. 学会等名 講習会 日本の文献資料《古辞書・漢字音》を読む(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 藤本灯
2. 発表標題 『色葉字類抄』語彙注釈の試み
3. 学会等名 フォーラム「古辞書・漢字音とデータベース2024」(国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 李媛	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 332
3. 書名 空海の字書 人文情報学から見た篆隸万象名義	

1. 著者名 藤本灯	4. 発行年 2021年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 196
3. 書名 古代の語彙(佐藤武義編、分担執筆:第四章「古辞書の語彙」)	

1. 著者名 藤本灯	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 648
3. 書名 漢字文化事典(日本漢字学会編、分担執筆:中世の漢語、いろは引き辞典の誕生と展開)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

辞書語彙データベース
<https://jisho-goi.kojisho.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	李 媛 (LI YUAN) (90803388)	京都大学・人文科学研究所・助教 (14301)	
研究分担者	中野 直樹 (NAKANO NAOKI) (00828650)	常葉大学短期大学部・日本語日本文学科・講師 (43804)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	劉 冠偉 (LIU GUANWEI) (70910917)	東京大学・史料編纂所・特任研究員 (12601)	
研究協力者	小林 雄一 (KOBAYASHI YUICHI) (00964553)	京都先端科学大学・全学共通教育機構・講師 (34303)	
研究協力者	本庄 総子 (HONJO FUSAKO) (40823696)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	申 雄哲 (SHIN WOONGCHUL)		
研究協力者	大島 英之 (OSHIMA HIDEYUKI)		
研究協力者	久保 粧子 (KUBO MASAKO)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 研究集会「古辞書・漢字音研究とデータベース2022」	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 フォーラム「古辞書・漢字音とデータベース2024」	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 講習会 日本の文献資料《古辞書・漢字音》を読む	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	清華大学			
韓国	慶星大学			
韓国	国立ハンパツ大学			